

祝100歳

おめでとうございます

ばん な お
伴 ふ を さん (松尾2区)



▶写真中央がふをさん

スキー競技で 近畿大会へ

さの れいか
佐野 礼佳さん

(日野中3年生)



▲意気込みを語る
佐野さん

このたび、日野中学校3年生の佐野礼佳さんが近畿中学校スキー大会(ジャイアントスラローム【大回転】)に出場されることになり、1月20日(金)、役場特別室で激励会が行われました。

佐野さんは、びわ湖バレイスキーチームに所属されています。小学校1年生からスキーを始め、1シーズンに15回ほどスキー場へ通い、練習に励まれています。

1月22日(日)、23日(月)に開催された大会では、力を発揮し健闘されました。

綿向雑感

日野町長 藤澤直広

今年の冬は、綿向山もずつと雪化粧をしていました。あの日も寒い日で大雪警報がでていました。こんな日に町民の皆さんに「原子力防災に関する学習会」に参加してもらえらるだろうかと心配しましたが、会場はいっぱいに。関心の高さを実感しました。

今回の事故は決して「想定外」ではなく危険性が早くから指摘されていました。大事な情報はきちんと開示され自由な議論が保障される民主的な社会をつくることが大切です。

「原子力防災に関する学習会」に参加してもらえらるだろうかと心配しましたが、会場はいっぱいに。関心の高さを実感しました。講師の安齋先生もたくさんの参加者に感動されたのか講演に力が入った様子でした。安齋先生は、講義や評論をするだけではなく、現地に入り、放射能を調査し除染の指導もされてきました。安齋先生は、東京大学原子力工学の一期生でした。当時、原子力の利用推進が国策でしたが、やがて原子力の安全性などに問題点を指摘するなどの見解を発表されたことから大学界で不当な扱いを受けられました。原発推進に物を申す者を排除し、推進する者だけで「原子力村」が形成され、結果として「安全神話」がつくられ、今回の過酷事故につながりました。

3・11東日本大震災から1年が過ぎようとしています。早春とはいえ被災地には冷たい雪が舞い散っています。そして、遅々として対策が進まない状況に苛立ちがあります。3・11を境にしてこの国は同じでいいわけはありません。被災者の生活再建第一の政治が必要です。市場原理至上主義でなく誰もが等しく幸せになる社会、みんなが助け合って生きる社会をつくらなければなりません。国政が混乱する一方で国民の間には確実な変化が生まれています。若者の間に「自分に何かできることはないか、人の役に立ちたい」という気持ちが広がっています。「原発から脱却しよう」とパレードする若いお母さんたちがいます。厳しい冬の下で暖かい春を待ちながら力強く若芽が育っています。3・11の苦難をしつかりと胸に刻みつつ新しい社会を築くために力を合わせましょう。